

中島高男さん

1927(昭和2)年4月16日生

陸軍軍属(船員)

所属 対馬丸



●1942(昭和17)年12月 日本郵船採用

横浜の海員養成学校をトップで卒業。対馬丸乗員となる。

●1944(昭和19)年8月17日 対馬丸那覇港入港

トラック島が大空襲を受けて、ものすごい船が撃沈されて、そこに補給にいったんです。帰りに運よく沖縄に戻ったんです。どうやら疎開船になるらしいとニュースが入りました。朝からものすごい疎開者が乗船してきました。

もう、ほとんどが子供なんですね。船に乗った人は記録によると、学童、一般疎開者1661名です。その中に、学童小学校3年から中学校までは、約800名のっていたんです。半分ですね。後の記録ですけどね。後で助かったのは59名しか残らないんですけどね。小さい大砲があるんですけど、41名の陸軍兵隊さん、船員が86名の 合計1,788人載っておりました。

●1944(昭和19)年8月21日 那覇港出港 ジグザグ航行をしなかった対馬丸

対馬丸は夕方6時半ごろ、出港しました。この対馬丸よりちょっと小さい小型船で、2隻の貨物船がまっついで、駆逐艦1隻、砲艦1隻で、護衛艦で5隻の船団で北上していきました。21日の晩は何事もありませんでした。

22日の朝から、台風が発生しました。海面は波立ってきて、ときどき強い雨がふってきた、日中はそんなわけで、嵐の中を進んでいくんですね、老朽船で船足が遅いんです。最高で12ノット。自転車くらいのスピードですね。今の競輪の選手にはかなわないです。船団から遅れがちになります。ただ、一番大切な船なので、まもっていかないといけない。潜水艦をさけるため、ジグザグ航海をするんですね。でも、対馬丸は遅れを取り戻すため、ジグザグ航行ではなくて、直線航行になってしまったんです。

●1944(昭和19)年8月22日 午後10時 対馬丸魚雷命中 阿鼻叫喚の船内

見張りを終えて、船室に戻った時、汽笛が鳴ったんです。船の悲鳴のように鳴ったんです。「潜水艦だ」と思って、椅子を立ち上がったんです。左後方ですごい爆発が起きたんです。ベットのところまで飛ばされたんです。

一発は一番船倉のした喫水点の下、2発目は機関の下、3発目が機関員のいる場所に当たったんです。機関員は死んじやいますね。もう、轟沈してしまうとその時わかりました。

救命胴着をつけて一番先に出たら、爆発のショックで鉄板のドアが開かないんです。体当たりをして、ようやく出たんです。蓋に載っていた人から、全部深い船倉に落ちこちたんです。奈落の底で、真っ黒で、中を見ると、忘れられません。夢にまで出ます。ものすごい勢いで船倉に滝のように水が流れてきて、人間と荷物とそれが渦巻きになっているんです。悲鳴が聞こえるんです。助けて、助けてと悲鳴が聞こえるんです。それを見たとき、これが地獄というものかな、と思いました。ものすごい状況でした。夢に出るんです。今でも。そういう状況を見て、これは大変なことになった。もう、梯子もなくて、10数メートルの下に助けにいけないですよ。見殺しにして、右舷の甲板を走ってポートデッキに向かったんです。

ものすごい浸水しているんです。上に積んでいる荷物から人間から、海に落ちていくんです。ブリッジではマイクで「退船」と叫んでいるんです。ポートの上から15メートルくらいのところから、真っ暗な海の中に飛び込んだんです。そしたら、垂直に飛び込んだので、深く潜ってしまったんです。浮き上がるのに精いっぱいだったんです。船から20-30メートル離れたんです。すごい音がしたんです。船が垂直になって、その瞬間ボツ海の中に消えてしまった。

その沈む速さは一瞬です。140メートルくらいの船でね。船が沈んでから、海面に空気の塊がドボツと上がってくるんです。それと一緒にいろんな浮遊物が上がってきて、ものすごい勢いでね。その中に混じって人間がぼこぼこ浮き上がってくるんです。救命胴着をつけた大人から子供が。それを見ると、身の毛のよだつ様子です。

(取材日:2006年4月30日)